

平成十九年七月二十五日号  
金子商会はお客様「三ツゼロ」を提案  
・在庫コスト セロ  
・現場待ち時間 セロ  
・現場の不満 セロ

営業時間 祭日も営業中！  
月曜日～土曜日 朝八時～夕方五時  
祭日 朝八時～十二時  
（祭日の配達業務は行っておりません）  
日曜日は休業日とさせていただきます。

# 夏本番！

## 熱中症に気を付けてください。

夏本番になりました、今年はこれからもまだまだ暑い日々が続きます。熱中症に気を付けましょう。

熱中症といえば、炎天下の中、現場作業をしていて突然倒れるといったイメージが強いかもしれませんが、実は熱中症が起きる原因はさまざま、周囲の環境の「暑さ」だけとは限りません。

普通は、体温が約37度以上になると、脳にある体温調節の中枢から皮膚へと、体温を下げるよう指令が出されます。この仕組みには、汗をかくことで表面の温度を下げるほか、血管を拡張し血行をよくして、血液から体外に熱を出す方法などがあります。

しかし、激しい作業などによって、体内で多量の熱が発生している場合には、うまく体温を下げる事ができず、体内に「熱」がこもってしまうことがあります。つまり、室内で激しい運動をしたような場合でも、熱中症は起こりうるわけです。

熱中症は、症状の程度によって、大きく三種類に分けられます。

一つ目は「熱疲労」。  
水分不足による脱水と、血管拡張に伴う血圧低下が急激に進行し、脳への血流が不足するために生じる。頭痛やめまい、吐き気、脱力感などがみられ、顔色が青ざめて脈も速くなるなどの症状がでます。

二つ目は「熱けいれん」。  
汗をかいても水しか飲まず、塩分を補給しない場合に起こりやすい。水を飲んでいないからといって油断は禁物なものです。血液の中の塩分濃度が低くなってしまうと、塩分を多く必要とする筋肉、特にふくらはぎや腕、お腹の筋肉

に痛みを伴う強いけいれんがみられるようになります。

「熱疲労」や「熱けいれん」の症状がみられる場合には、その人を涼しい場所に連れて衣服をゆるめ、水分や塩分を補給すれば、症状は回復することが多いとされています。

だが恐いのは、三つ目の、最も症状が進行した重い「熱射病」です。

熱射病は、体温が40度を超えるなどして、体温を調節する中枢機能自体が麻痺してしまったものです。汗をかくことができなくなると、暑いのに皮膚が乾燥したり、反応がなくなったり意識が低下するといったさまざまな意識障害が起こります。

### 熱射病は死亡率が高く非常に危険なので、言動がどうもおかしいなと思ったら意識障害がみられる場合は、すぐ救急車を呼ぶべきとされている。救急車を呼んでいる間も、その場でできる応急処置として、濡れたタオルを当てたり、水をかける、水を当てるなど、できるだけ体温を下げる必要がある。

では、熱中症はどのようにして予防すればよいのでしょうか。右記の分類をみてもわかるように、すべての熱中症は、汗で失われてしまった水分と塩分の不足によって起こります。

人は普通に生活しても、呼吸や排尿によって一日に2リットル以上もの水分を失っています。夏場の暑いときにはこれに加えて、汗によって失われる水分量があります。この量は、多いときは1時間に1リットルに及ぶこともあるといえます。つまり、夏場の外出では、こまめな水分と塩分の補給は欠かせないということです。

しかし、「ここで注意が必要なのは、お茶や水などを飲んでいても、塩分を取りなければ「熱けいれん」を起こすことがあるという点です。この塩分摂取の目安となる量は、水分の0.1から0.2%程度といわれていますが、いわゆるスポーツドリンクを利用する

のがもっとも手軽な方法です。麦茶と梅干の組み合わせもお勧めです。麦茶500CCに1リットルに対し、梅干し1個で大体0.150.2%程度の塩分量になります。

なお、スポーツや現場作業などに熱中していると、ついどの湯きを意識しないことが多いかもしれません。しかし、夏場に15分間程度歩くと、体から出ていく水分量は約200ミリリットル、1時間の通勤でも600ミリリットルは汗をかいていると言われています。日常生活で意外と多くの水分が体から失われているのです。

金子商会では、冷たい麦茶を用意しています。事務所にお越しの際は、いつでも遠慮なくお申し出ください。

## コンプライアンス

ミートホープや耐震構造建築偽装事件など、今『正直であること』が企業に求められています。

「コンプライアンス」という言葉自体は定着しているのでしょうか？  
この概念を短い日本語で表すのは難



しいです。一般的には「法令順守」と訳されますが、弁護士の浜辺陽一郎さんはこの訳に「少し誤ったニュアンスを伝えてしまう危険性を孕（はら）む」と否定的です。法令だけをとかく守

ればよいなどと理解されては困るからです。

浜辺さんはコンプライアンスを考えると「最終的に完全な物やサービスを提供しようとする誠実な姿勢こそが大事」と言っています（「コンプライアンスの考え方」中公新書）。

誠実は正直と言い換えてもいいと思います。それが企業の信頼につながるということだと思います。

先日、北海道苫小牧市の食肉加工卸会社「ミートホープ」に捜査のメスが入りました。豚肉などを混ぜたひき肉を「牛ミンチ」として出荷していたことが疑念の発端ですが、時間の経過と



ともに産地やブランド、賞味期限の偽装と背信行為は底なしの様相を呈しています。

田中総社長はひき肉の偽装を始めた七、八年前には違法の認識がなかったと説明しています。だから問題はないと言いたいのかも知れません。それが根底にあるからなのか、疑惑発覚後も責任転嫁の発言を繰り返しており、「コンプライアンス以前」の、経営者としての資格がないように感じられます。

従業員はいつか露見するとおびえながら、偽装を続けることに悩んでいたとの証言があります。内部告発に踏み切った人もいますが、それでも多くの人がワシマンの社長に逆らうことができなかつたようです。人間は弱いものなのではないでしょうか？

食品業界だけでなく、企業の不祥事には「ミートホープ」に似た構図が少なくありません。下請け孫請けという構造のある建築業界でも、同じような事件がありました。建築偽装事件、姉歯設計事務所の人、仕事のため、儲かるからという理由でやっていくこと、もう一度考え直す時期がきているのではないのでしょうか？

金子商会では、7月いっぱいまで、フジストンのフッシュロック機手の取扱いをやめさせていただくことになりました。

理由は、自信をもってオススメすることが出来なくなったからです。今はまだ事件になったりニュースにもなっていない、また、あまりにも小さな市場ですから、ニュースになることはないかもしれません。

大切なことは、  
「自分が正直であるのかどうか」  
それはうそがないかということ。ウサギはなぜ嘘を許せないのか？（アスコム）

フッシュロックは確かに売れている商品です。これまで、またメーカーサイドから正式なアナウンスがあったわけではないありません。改良されてきた商品であるかもしれませんが、他の商品よりも普及しているから水漏れの件数が多いだけなのかもしれません。

実際、下関の市場は特殊で、日本全体の市場を見てみると、フッシュロック継手のシェアは低いのです。山口県はどちらかといえば、フッシュロックを使っている業者様が多いです。

これは、樹脂管が普及し始めた今から20年前ほどに、山口県のある業者さんがかなりの普及努力をしたからだと考えられます。それはそれですばらしいことだと思います。

話が、それでした。

この「コンプライアンス」は大きな会社だけの問題ではなく、お金をいたたくプロである人には当然のことだと思えます。正直に仕事をするのがキチンと賞金に結びつく、正等に評価される、そんな世の中になりつつあると言っているのではないのでしょうか？  
正直者がバカを見る時代が終わりました。あるのかもしれない。

僕は、世の中は確実にいい方向へ向かっていくのだと最近思っています。

政治家や公務員の不祥事にしても、昔からあることで、それがバシってなかったのが、最近では表に出るようになってきた話なのではないかと思えます。いろいろな問題がでてきたのはなく、昔からあった、それがバシる世の中になっただけのような気がします。

新しい金子商会のホームページを作成しています。

このホームページのコストは、レンタルサーバー代とドメイン管理費合わせて、9200円です。これは月の経費ではなくて、年間の経費になります。

つまり月々766円になります。1000円も掛けずに、作れてしまふのは、ものすごいことだと思います。

ホームページの作成会社に毎月何十万円も払っている会社もあれば、コストが1000円もかからない会社もあるということです。

知っているか知らないかの違いですが、この差は大きいようです。

先日ある講演会を聞く機会がありました。詐欺や犯罪、あるいは事故に巻き込まれる原因はなにかという内容でした。リスクには七つの原因があって、それは、無知、無計画、無関心、怠惰、惰性、無思考、不勉強だそう。情報をだれもが簡単に知ることができる世の中になったからこそ、「知らないこと」から生じるリスクはドンドン大きくなっていくということだそう。そんなの知らなかった。「と後から言ってもムダで、「知らない方が悪い」という、自己責任を強く意識した思考や行動を取らなければ、結局は損をするということなのかもしれない。

「どうして教えてくれなかったの？」「だれも教えてくれなかった」「そんなこと知らなかった」というのが口癖になっていないか気をつけたいといけません。日ごろから他人に責任を転嫁したり人のせいにする癖がついていると、損をする確率が非常に高くなるので、気をつけたいと思います。

なにか問題があったときに、すぐに「政府が悪い」とか、「法律でなんとかしなければいけない。」とか言うのが一番危険なのかもしれませんね。